

【研究主題】

「すべてのいのちが輝くアイデア」 – 自分たちのアイデアを実現し、一人も取り残さない未来社会を創る –

【開発するプログラムの概要】

SDGsの「誰一人取り残さない」という理念について知り、身近な社会的事象から課題を見だし、世界的観点に結び付けて課題の解決に向けたアイデアを考え、企業・NPO等からのアドバイスを生かしながら、身近な地域での行動につなげていく探究的な学習プログラム

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<中学校・2年生> 社会科（地理的分野）

【単元名】「日本の地域的特色と地域区分」(C(2))

【主な単元の目標】

- ・日本の地域的特色と地域区分を理解する。
- ・日本の地域的特色を多面的・多角的に考察し、課題解決に向けて考えたことなどを表現する力を身に付ける。
- ・日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現に向けて見出した課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

【学習課題】地形や気候、人口などの地域差に着目すると、自身の地域の様々な課題がみえてくる。「誰一人取り残さない」という観点でそれらの課題の解決につなげるために、自分たちに何ができるかを考える。

【実践例】※社会科（地理的分野）「日本の地域的特色と地域区分」第11/11時 交通・通信による結びつき

授業の概要

<概要>

- ・交通・通信の発達には、地域同士の結びつきを強めていることや、その結びつきには偏りがみられることを理解する。
- ・SDGsの理念の観点から、交通・通信の発達はどのような課題解決につながるのか。この点について、自分たちの地域における課題に着目し考察する学習を通じて、主体的に解決しようとする態度の育成につなげる。

<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・交通の発達については、高速道路が整備されていないという自分たちの地域課題と結びつけて考えさせることで、偏りを実感できるようにした。
- ・通信の発達については、スマホ等の情報端末から多くの情報を得られることや、世界中とつながることができる等の利便性がある一方、通信網の整備状況によって情報格差があることに着目できるようにした。

○社会科（地理的分野）と他教科等との連携

- ・先行して行った総合的な学習の時間「SDGsについて」の学習で、社会の課題を解決するアイデアを考えたとにより、交通・通信の発達により解決できる地域課題について多面的に見出し、その解決に向けて主体的に関わろうとする態度につなげることができた。

専門家や関係諸機関等との連携・協働

生徒が地域の課題を見出し、その課題解決のため、主体的に取り組む自治的な活動として展開できるよう、富田林市社会福祉協議会や富田林市人権文化センター、市役所の関係課とも連携・協働しながら、地域における実践内容を含めた学習プログラムを開発している。

効果等

- ◆「誰一人取り残さない」というSDGsの理念に関連させて捉えることができた。
- ◆地域課題に着目し、「自分たちに何ができるか」を考えることにより、課題解決をめざす自治的な活動に対する主体性を高めることができた。

⇒「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」R4肯定的回答71.5%(R3 40.4%)



時間	主な学習内容	
	社会科（地理的分野）	関連付けた他教科等
1-3	日本の地形・日本の国土の特色	理科「生きている地球」
4	日本の気候の特色	理科「日本の気象」
5/6	自然災害と防災への取組	保健「自然災害を知る」 総合的な学習の時間 「地域学習」 (福祉・防災等)
7/8	日本の人口の特色	国語「モアイは語る」 特別活動「自治的な活動」 (無料塾・子ども食堂)
9	日本の資源・エネルギーの特色	技術「エネルギー変換」
10	日本の産業の特色	総合的な学習の時間 「SDGsについて」 「地域学習」 (地域の良さや課題等)
11	交通・通信による結びつき	

※単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号